

道標復元

匠 瑳 探 訪

202

豊和地区内山の人から道路の端に文字の掘られた石碑があると聞き、現地を案内していたきました。

県道74号線を大寺方面から飯高方面に向かい、多古町坂に通じる丁字路の入り口に道標が東面を上にして埋まっていた。近所の人の話で石碑の4面に文字があった、と確認されたので掘り出し道路脇に復元されました。

道標は高さ約54センチの角柱で正面に「東諸人道中安全 大寺村干潟 岩井 てうし（鮒子）」とあります。

市内では数カ所で道標が確認されていますが、「干潟」や「岩井」と見られるのは初めての発見となります。

干潟はもちろん「干潟八万石」の干拓地で、岩井は「岩井の滝不動」や「岩井の不動様」として知られる旭市岩井の龍福寺のことでしょう。

正面右側は「北 坂村 松崎（多古町東松崎）香取 小見川 佐原」と五つの地名が刻まれ、佐原街道への案内だったでしょう。

正面左側は「南 飯塚 松山 八日市場 東金」とあり、内山の本村

からの方向を示しています。

裏面には「西 小高 多

古 成田 江戸」とあり、この方向が

江戸道と呼ばれていたことを伝えています。この面には道標が建てられた年号と関係者の名があり、文政5（1822）年8月に名の読み取れる内山村の林勝右衛門、久古政右衛門、飯田左門、椿縫右衛門らが建て、東西南北に隣接する村名を刻むなど村人らの配慮も感じられます。

市内に残る道標は飯倉村の「若者中」（1800年）、大寺村「二十三夜講中」（1813年）、椿村「馬持中」（1855年）などが道端に立ち、かつて路傍にあったものが寺の境内や墓地に移されたと見られる飯倉新田（1777年）、木積・龍頭寺（1793年）、横須賀・長徳寺（1811年）などもあります。

今回の発見は、それらに加わる復元となります。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

図 秘書課広報広聴班

☎73・0080



復元された道標